〔地方だより〕

台風9号があけたガラスの穴

岡部成徳* 内田一雄*

日本の気象史上第4番目の瞬間風速78.9m/sと甚大な被害を残した昭和45年台風9第号は，ある船の窓ガラスに丸い穴をあけて走り去った．

この船は奄美大島南端の町古仁屋（コニヤ）と小さい島々を結ぶ町営の巡航船こがね丸（定員34名31.5トン）で，絶好の台風避難地として内外に知られる大島海峡の1部（図のA点，瀬戸内町浦湾）に避難していた．

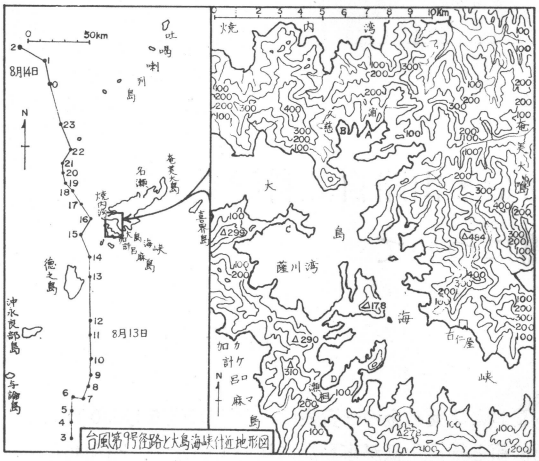

写真1

ところが，『8月13日の昼過ぎに台風の眼に入り，その後猛烈な南風の吹返しが始まり，気が付いたら客室の左舷窓ガラスに円形の穴があいていました．小石か何かが飛んで来たんでしょうね．午後7時から7時半の間でしたよ．台風銀座と言われる奄美の海で長年舵を握っていますが，見たことも聞いたことも無い恐ろしい風でした．何しろ海が盛り上って船を包み込んだと思うほどの凄いしぶきで，舵室からへさきが見えませんでしたからね．厚さ3mmのガラスにあんな綺麗な穴もあいたことですし，さぞかし90か100m/sも吹いたんではないでしょうか．』南海の陽に焼けた老船長は，その嵐を無事切り抜けたためだろう，話の恐ろしさと裏腹ににこやかに語ってくれた．

ガラスは厚さ3mm，縦60.6cm，横5.3cmのパテ止め

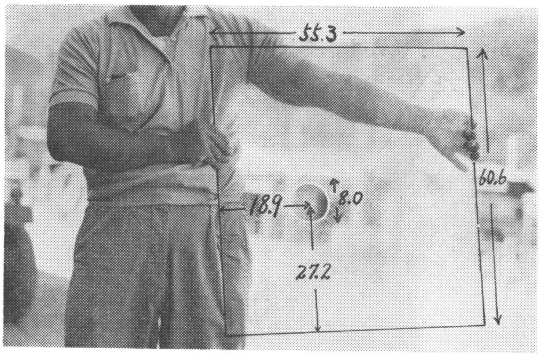

図2

で，穴は写真のとおり直径8cmの真円に近く，内側つまり風下側は少し広くなっている．一部に少しひび割れがあるがまったく美事に丸い穴があいたものである．

台風の中心はこがね丸の西約20km，徳之島と奄美大島の中間をほぼ北に進み，中心気圧945mb，最大風速45m/s，眼の半径35kmであった．

暴風のため錨を引きずったまま流されて図のC点（薩川湾）に座礁した貨物船ジャパンチーフ号（4309トン）を始め，大島海峡の大型船だけで11隻が座礁・衝突した．それらのうちB点（久慈湾）で座礁した客貨船高千穂丸（1070トン）は最低気圧948mbを観測し，D点で衝突した水産大練習船天鷹丸と客貨船八坂丸（1442トン）は949mbの最低気圧と60m/sでスケール・アウトした瞬間風速を観測した．

奄美大島では暴風が谷間で収束し，あるいは山越えの風下渦などのため特にガストが強くなり，同時に3個の竜巻を観測した部落もあった．

一体どのくらいの石が，どれだけ物凄い風速で飛ばされて穴をあけたのだろうか．

* 名瀬測候所